

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	6 月 10 日 (火)	安達

● 実施計画

活動テーマ	
サイエンス ~自然~ 図鑑や地図をつくろう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
<p>「図鑑、地図の次の製作はいつするの?」などと保育者に問いかけたり、自由遊びの時間に図鑑を友達と見合い楽しむ姿が見られた。廊下に掲示することを知ると、「頑張って作ったところをお家の人に見てほしい!」とワクワクしている様子もあった。</p>	
活動スケジュール	環境設定・準備物
時間	内容
11:10~11:20	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のようなことをしたか、友達の作品を見てどう思ったか振り返る。(ホワイトボードに記録) ・作品を見せながら、自分のこだわった部分や頑張った部分を発表する。 ・友達の作品のいい所や、見る人の視点を意識し、完成イメージを持って取り組むことを伝える
11:20~11:50	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な用具、写真、前回の作品を用意する。 ・完成のイメージを持ちながら、図鑑や地図の製作を進める。 ・製作が完成した作品から掲示していく。
	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園で撮影した写真 ・ポケット図鑑 ・植物や昆虫の図鑑 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・図鑑用の台紙(大判の画用紙) ・冊子にするための製本テープ ・地図を作成するための大判の画用紙 ・前回の活動で子どもたちが製作した作品 ・ホワイトボード ・マーカー <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが日頃からポケット図鑑を触れる機会を作る。 ・訪れた公園の写真を準備しておく。 ・子どもたちから図鑑・地図づくりに必要と意見が上がったものを準備する(例えば、クラフト用紙、絵の具、クレヨンなど) ・前回製作した作品は、保管に注意しながら、みんなで鑑賞できるようにしておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・子どもたちは自然物の発見場所を細かく思い出しながら、友達と協力して地図上に丁寧に記録していた。</p> <p>・限られたスペースの中に貼るために写真の大きさを考えたり、先に公園の地図を書き発見した場所を思い出しながら写真を貼り付け製作したりと、空間認識の発達が見られた。</p> <p>・完成した図鑑や地図を見たり、掲示をしたことで、満足感や達成感を味わう様子があった。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「この木の下にカメムシが歩いていたよね。」 「道路の近くの花壇にいっぱいお花があったよね。」 「あじさいはどちらの公園にもあった気がする！」などと、具体的な場所や状況を生き生きと思い出しながら表現していた。</p> <p>・友達の作品を見て「ここ真似してみようかな」などと友達同士で話す様子がみられた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・時間や製作工程に見通しを持ってを製作できるように、時計を意識したり製作物の紛失のないように事前に気をつけてほしいことを伝えた。</p> <p>・名前や説明文を書きたい子、地図の作り方に悩んでいる子など、それぞれに表現をサポートしながら、一人ひとりの表現を認めていった。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・今回の活動を通して、目的を持ちながら探索することの楽しさを味わえたように感じた。</p> <p>・友だちと情報を共有し、それぞれの記憶や発見を図鑑や地図として表現することで、コミュニケーション能力や協調性も同時に育まれていた。</p> <p>・また、自分たちの身近な環境への興味関心が深まり、日常的な探索活動への意欲も高まっている様子が見られた。</p>	<p>・情報をインプットするだけではなく、受け取った情報を自分なりに咀嚼し、さらにそれを第三者と話合ったり、伝えたりする体験を繰り返すことは、子どもたちの心に大きな自信を育むことに繋がります。</p> <p>今回、目的をもって近隣公園の環境について観察ができたことや、実際にオリジナル図鑑や地図として自分たちの思考錯誤の結果を形として残すことができたこと、そしてそれを、ご家庭の方にも見て頂けたことは、子どもたちにとって大変意義深いことであったと思います。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	10 月 6 日 (月)	安達

● 実施計画

活動テーマ
たべもの ～食べる～ 食べ物の働きを調べてみよう
活動テーマに関する 日頃の興味関心について
食べ物に関連する絵本を本棚に設置していたため、子どもたちが自由に手に取って読む機会が多かった。友だちと驚いたところなどの感想を共有し合いながら楽しんで絵本を見ていた。

活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:10～10:30	・食べ物の働きについて描かれた絵本をグループごとに発表することを提案する。 ・必要な用具を用意する。 ・紹介したい絵本をグループで決める。 ・グループで絵本を読む。 ・絵本の紹介文を描き、発表する。	
10:30～10:40	・完成した紹介文をみて、今回の活動を振り返る。	
		【活動使用教材】 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・絵本 ・食材の写真 ・筆記用具(鉛筆、色鉛筆、カラーペンなど) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・食材の写真を印刷しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動内容の振り返りから始め、子どもたちが自分の体験や気づきを言葉にすることで学びを整理し、次の探究への関心を高める。 ・絵本をグループごとに選び、読んで内容を理解した。 ・絵本の紹介文を役割分担をして考え、紙にまとめ、発表をした。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで絵本を見る時には、「ここおもしろいよ！」「卵焼きってこうやってできるんだって！」などと感想を共有したり、どのような所を紹介文に書き込むか話し合っていた。 ・絵本の内容が少し難しいグループもあったが、面白いフレーズや面白かった場面に焦点を当てて、読み手が読みたいと思えるような構成を考えていた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の紹介文を描くことは初めてだったため、紹介文とはどのような物なのかを分かりやすい言葉で説明した。 ・文字で表現するのが苦手な子もいた為、「自分の好きだったページを描いてみるのはいかがでしょうか？」などと一人ひとりに合わせた援助をした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を4冊用意し、それぞれ違った視点から食についてのことが描かれていたため、他のグループの発表を真剣に聞いていた。 ・紹介文というものは自分から見た感想だけではなく、相手が見たいと思えるような文や絵を考える必要があり、食に対しての意欲が向上しただけではなく、相手の気持ちになって考える経験にも繋がった。 ・今後も絵本を本棚に設置して置き、給食などで上がった疑問などを自分で調べられるような環境構成を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を大人から読んでもらうものではなく、友達と一緒に読んで理解を深め、さらに他のグループに内容を紹介するというかなり高度な探求であったと思います。自分が理解するだけではなく、他者の理解を得るためにはどのように表現した良いかという視点を持てたことや、実際に取り組んでみて、他児から共感や賞賛を得る経験を積み重ねることができ、自信に繋がったのではないのでしょうか。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	1 月 13 日 (火)	安達

● 実施計画

活動テーマ		環境設定 ・ 準備物
アート～この絵どんな絵？～ 名画から技を学ぼう！		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
友だちや保育者からのリクエストされたものを、思い出しながら絵で表現し、相手に披露することを楽しんでいる。また、トリックアートの図鑑を見て、遠近法は認識していないものの、「どうして近くにあるように見えるのに、へこんでいるんだろう？」と近くの物は大きく見えるという理論を理解していた。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・前月の振り返りとして、コラージュ作品について触れ、絵を描く以外にも絵画の作品が作れることを思い出せるようにする。 ・名画を見ながら、「どうやったら本物みたいに見えるかな？」と問いかけ、描き方に注目できるようにする。 ・遠近法を使った絵を見せ、「どうやって描かれているのかな？」と問いかけ、考えるきっかけを作る。 ・富士山のような遠くのもの、手元にある物の大きさの違いについて話し合う。 	【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが見本を見やすいように環境を整える。 ・各自が製作しやすいようにスペースを確保する。 ・遠近法が使われた絵画の画像を掲示し、視覚的な参考にできるようにする。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。 【準備物】 <ul style="list-style-type: none"> ・A4コピー用紙 ・えんぴつ ・定規
10:10～10:25	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に室内のものを使って、遠くにあるものが小さく見えることを体感する。 ・遠近法の基本(遠くのは小さく、近くのは大きく見える)を知ることができるようにする。 ・白画用紙に、実際に遠近法の描き方を真似て描いてみる。 ・資料を参考にしながら、消失点を意識して線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・マグネット、テープなど(資料を掲示するため) 【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> ・遠近法の描き方を確認し描けるようにしておく。 ・*添付資料あり 【遠近法体験の手順】 <ul style="list-style-type: none"> ・白画用紙に十字の折り目をつける。 ・すべて開き、中心に黒い点を打つ。 ・その点から細長い三角形になるように、まっすぐ線を引く。 ・三角形の中に、横線を描いていく。 ・三角の両脇に、隙間を開けて2本ずつ斜めの線を追記する。 ・画用紙の中心近くに小さな木の絵を描く。 ・三角の片が一番開くほうへ向かって少しずつ大きな木を描く。
10:25～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を発表し、「どこを工夫したか」「難しかったことは？」を話し合う。 ・名画をもう一度見返し、遠近法が使われていることを確認する。 ・目で見た形や景色と、頭で考えて描く絵は違ってくると、見たままを描くことがとても難しいことを確認する。 ・実際に描いてみたのち、名画の描かれ方について振り返り、次回絵画に自分の思いを乗せて描いてみることに触れ、期待感をもてるようにする。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に身の回りの物を見比べることで、遠くのものが小さく見える遠近法という仕組みを知った。 ・実際に遠近法を用いた絵を描いた。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道はまっすぐなのに、どうして三角に描くの？」という疑問が生まれたが、実際の道と見比べてみると遠くにある方が小さくなることに気付き、自分で発見できた喜びを感じていた。 ・「木は傾けて書くよりまっすぐに描いた方が本物っぽいね！」とより実際の風景に近づけようとする意欲も見られた。 ・書いた紙を目線と平行にして見たらどうなるか試し、「もっと奥に木が遠くにあるみたい！」と友達と共有し合っていた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーテンを開け、外の風景をみんなで見ながら「遠くのもの」と近くのもの、どんな風に違って見える？」と問いかけたり、対象物がそのほかの物より小さくても近くに来るとどう見えるかなどを実験し、見え方の違いに関心をもてるようにした。 ・「どうして道は三角に、斜めに描くと思う？」「木は奥の方が小さいのはどうして？」と問いかけながら、遠近法の仕組みを理解しながら絵画を楽しめるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・遠近法という技法を知り、日頃の製作活動や自由画に取り入れようとしていた。 ・部屋に飾ってある自分の自由画を見て、「ここはもっと斜めにしたり、小さくしたら本物に近づくかも！」と感じる子もいた。 ・完成した絵に、自分の好きな絵を付け加えてもいいことを声掛けすると、遠近法の特性を理解しながらビルや鳥、木を付けかわえて自分なりに絵画を楽しんでいた。 	<p>見るだけではなく、技を知って実際に行ってみるという、子どもたちの探求心がくすぐられる活動内容でしたね。どんなものにも仕組みがあり、それらについて調べたり理解を深めて取り組むことにより、習熟度が増していくことを実感することができたのではないのでしょうか。</p> <p>「本物の絵みたいだ」という子どもたちの言葉にも表れているように、自分の描いたものの仕上がりがこれまでとは違って、それらは自分が学んだ結果得られたものであるという過程を実感できたことは、単に絵が上手に描けるようになったということではなく、今後様々なことに取り組む際に活かされる貴重な経験になったことと思います。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 らいおん 組	2 月 10 日 (火)	安達

● 実施計画

活動テーマ	
おかね ～おかねの使い方を考えよう～ ためるってどういうこと？	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
これまでの活動を通して、受け取ったお金で何を買おうかを考えたり、実際にもらったお小遣いやお年玉の使い道について考える姿が見られる。	
活動スケジュール	
時間	内容
11:30～11:40	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、働くことでお金を得たことを再確認し、お金を何に使いたいか考える。 ・もらったお金(模擬通貨)を持ち運べたり、貯めたりできるように財布を製作する。
11:40～12:10	<ul style="list-style-type: none"> ・前回得たお金の使い方を考える。 ・景品(A賞とB賞)の説明をする。 ・お金を使うか貯めるかを決める。 ・使うことを選んだ子どもは、A賞と交換する。 ・貯めることを選んだ子どもは、おしごとをする。おしごとが完了したら、模擬通貨を手渡す。 ・貯めることを選んだ子どもA賞やB賞と交換する。 ・お金を貯めたことや使ったことについて、難しかった点や、どのような基準で決めたかを発表する。 ・お金を使う目的は様々であり、計画的に使うことの大切さを伝える。 ・「価格の差」や「賢い買い方」について、次回詳しく調べることを伝える。
環境設定 ・ 準備物	
<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にする。 <p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬通貨(ポーカーチップ) ・景品 ・おしごとカード ・財布の材料(折り紙、色紙、クレヨン、マーカーなど) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが園内で安全に行える仕事の候補を3～4種類ほど考えておく。①A賞とB賞の景品(または景品の絵カードや写真カード)を用意し、子どもたちが一目で分かるように掲示する。特にB賞は、子どもたちにとって魅力的なものにする。 ・前回、一人一人がもらった模擬通貨の枚数をホワイトボードに記載しておく。 ・交換のルールを大きく分かりやすくホワイトボードに記載しておく。②財布の製作方法を提示できるように準備しておく。 ・財布のデザインや色、形は子どもたち自身が選べるよう、多様な材料を用意する。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、前回得たお金を「使う」「貯める」という選択肢があることを伝え、それぞれの意味を話し合った。</p> <p>・展開では、子どもたちは自分の予算内で、「今すぐ使う分」と「貯める分」に、いくらを振り分けるかを自分で考え、決めた。</p> <p>・まとめでは、お金の振り分けを決める難しさや、貯金が将来の目標を達成するための手段であることを考察した。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おしごとは大変だけど、お金をたくさん集めて買った方がいいものをいっぱい買えるよね」と手元にあるお金を貯金するという感覚を経験していた。 ・「おしごと大変だから、ぼくはすぐに使って買おうかな」と、労働の大変さに気付く姿もあった。 ・「お金を貯めて交換したら、もっといいものが買えたよ！」と友達と喜び合っていた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貯金をする意味を考える時間を設け、お金を使う目的を深堀し、貯金をして商品を買うことの喜びをさらに得られるように援助をした。 ・子どもたちがそれぞれ選択した意見を尊重し、考えに正解や不正解はないことを伝えた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・お金を「使う」だけでなく、「貯める」という選択肢を提示したことで、将来のために今を我慢するという感覚を知ることが出来た。</p> <p>・自分にとって必要なものとは何なのかを考え、自分で選択し決定する力を育むことが出来た。</p> <p>・お金を貯めて自分の手持ちのお金がどんどん増えていくことに喜びを感じ、働き方やお金の使い道について考えるいい機会となった。</p>	<p>お金を稼ぐ、使うだけではなくて、「貯める」「とっておく」という手段について気が付き、遊びの中で体感できたことは、とても素敵な気付きでした。また、お金を得たい気持ちと労働するための体力や気力は、天秤にかけたときに釣り合っている必要があるもので、欲しいものと、それに対して必要な労働が、自分に適しているのかなどについて、この探求活動を通して感覚的に学ぶことができたことは興味深いものであったことと思います。良い経験でしたね。</p>